

第9回 運営会議
(H22.2.24)
資料-3

平成22年度 河川レンジャー年間活動計画(案)

平成22年2月

木津川管内河川レンジャー 山村 武正
福井 波恵
田中 秀行

目 次

1. 木津川管内河川レンジャー 山村 武正 1
2. 木津川管内河川レンジャー 福井 波恵 53
3. 木津川管内河川レンジャー 田中 秀行 82

1. 木津川管内河川レンジャー 山村 武正

1.1 活動テーマと活動分野

木津川出張所管内を活動エリアとする山村レンジャーは以下の活動テーマのもと、17の活動を実施します。

活動テーマ

木津川を身近に

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
環境保全を図る活動	木津川の川調べ
	活動 自然観察会(植物) 5/8 9/19
	活動 親子自然観察会(昆虫) 6/27
	活動 川で遊ぼう 魚をとろう 8/22
	活動 ツバメのねぐら入り 8/7
	活動 親子川辺の交流 4/4 8/16 9/18
	木津川清掃
	活動 京田辺市域 6/5
	活動 全域(共同) 6/20
	木津川植物モニタリング(全域) 年間 2回/月
河川の適正な利用、 歴史・文化の普及活動	木津川植物展 淀川資料館 7月・8月
	木津川展 2/12-20
	木津川ってどんな川
	活動 木津川出前講座 年間随時
	活動 京田辺市文化祭 10/30-10/31
防災の推進を図る活動	活動 京田辺市中部流域センター祭 11/13-14
	地域で考えよう防災 7/24-25
行政と住民のコーディネート	防災施設の見学会 未定 8月頃
	木津川沿川活動団体交流会 1/22
川づくりまちづくりへの 参画活動	木津川市観光協会ネットワークに

1.2 木津川の川調べ 親子川辺の交流

(1)活動目的

地域の水路として改修され、その堤に桜並木が整い美しい景観をつくりだし、京田辺市の桜の名所としての地位を築きつつある馬坂川に農業用水路を活用し貯水の上、小舟による桜を見る会を開催した。約3時間の取り組みだったが、大変人気が上がった。今年も地元商店街や自治会などに加えて摂南大学や同志社大学生の皆さんと連携し、年間を通じた河川清掃を取り組みつつ輪を大きくして取り組む。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	3 月 22 日、27 日河川清掃作業 3 日(土) 前日準備 4 日(日) 実施	後援申請 チラシの作成と配布 借用物の申請、川の清掃 地元商店街や自治会との連携、まとめと報告書の提出
	5 月		反省会
	6 月		
	7 月	防賀川清掃	
	8 月	16 日 灯呂流しと防賀川清掃	
	9 月	18 日 川辺の音楽会	
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月	馬坂川清掃	

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民

定員 300名(小学生以下は保護者同伴)

(3)実施内容

講師 大植登 藤田進 澤井健二

指導者 田中秀行 福井波恵 山村武正

スタッフ 郡角治他連合自治会 15名 西村進河原区長ほか 8名
河野俊夫商店街会長ほか 10名 東住宅有志 10名
同志社大学生摂南大学生 15名 里山の会 10名
その他多数

プログラム

9:30 スタッフ集合 打合せ

10:00 乗船開始 (事前学習の実施 諸注意)

水防 水質 洪水 自然環境などの説明 15分
約15分間の乗船

15:00 終了

(4)実施日

平成22年4月4日(日)

(5)実施場所

京田辺市河原地域 馬坂川 下流部500m域



(6) 広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などでの
募集案内チラシ置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ
協力スタッフ やましる里山の会 : 10 名
(運営補助、安全管理)
講師(予定) 検討中もあり

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送
案内チラシの郵送
小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付
マスコミ各社への催事案内記事の提供
資料、アンケートの印刷
講師謝金の支払い
ライフジャケットの提供

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成
当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ
後援団体への事後報告書の提出

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

乗降足場の改善

斜面歩行の足場の改善

ライフジャケットの装着指導の徹底

(前日 スタッフへの体験指導)

参加申込方法の検討 はがき FAX

(当日の待ち時間の解少対策)

(11) 活動を行ううえでの課題等

募集地域の拡大について検討

前日までのカヌー教室の開設について検討

乗船料など参加費の徴収について検討

(12) その他

乗船時間 10 分間では物足りない内容の充実など、新企画の検討

救急体制の確認

1.3 木津川の川調べ 自然観察会(植物)

(1)活動目的

堤防は人々の暮らしや財産を水害から守る役割を受持っている貴重な施設です。この施設の管理に草刈が行われています。木津川の堤防は、河川の砂を使っているため、貧栄養で貴重な植物が生育しています。それらは以前家畜(牛など)の餌や堆肥の原料として土手や里山道の草が使われていました。ところが、農業の機械化などで草の必要性が無くなり、草刈が行われなくなりました。

しかし、現在国交省が行っている堤防の草刈りは安全管理を目的にしています。ところがその草刈作業は、これまで農家が行ってきた自然管理を肩代わりすることになって、行われなくなった堤防での草刈り作業を継続する結果となっています。その結果木津川堤防には 917 種の植物が生育し、絶滅危惧植物 38 種が確認される貴重な自然保護のための作業となっています。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		実施計画の立案 広報の手配
	5 月	8 日 春の木津川花散策 手原川～岩田	資料作成 講師スタッフ打合せ 結果のまとめ 後援団体への報告書提出
	6 月		実施計画の立案 広報手配
	7 月		参加呼びかけ作業 チラシ配布
	8 月		講師・スタッフ打合せ
	9 月	19 日 秋の木津川花散策 大河原～笠置	現地下見 資料作成 結果まとめ 後援団体への報告書提出
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域市民

定員 30人(小学生以下は保護者同伴)

(3)実施内容

植物に関するお話と現地説明

木津川に関する過去の洪水と安全対策のお話

講師

指導者 湯川幸子 鈴木由紀枝

スタッフ 伊藤千恵子 中西はる江 北波ヒロコ

森島保 深田三郎

プログラム

9:30 集合 開会挨拶

コース説明 講師紹介 自己紹介

9:40 お話 木津川に関する洪水と安全対策について

10:00 花の散策

11:45 まとめと感想発表

12:15 現地解散

(4)実施日

5月8日 左岸 手原川～流橋

9月19日 左岸 南山城村大河原～笠置大橋

小雨決行 予備日なし

(5)実施場所

5月8日 左岸 手原川～流れ橋



9月19日 左岸 南山城村大河原～笠置大橋



(6)広報・募集方法

- 河川レンジャー ホームページで募集
- 運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
- 一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
- やましろ里山の会ホームページ掲載
- 週刊ニュースで参加呼びかけ
- 運営会議対象区域内の学校教育機関
- 図書館などでの募集案内チラシ置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会 :5名

(運営補助、安全管理)

講師(予定) 光田重幸(同志社大学准教授)

植物に関するお話

(8)必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送

案内チラシの郵送

小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付

マスコミ各社への催事案内記事の提供

資料、アンケートの印刷

講師謝金の支払い

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載

自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ

募集案内チラシの作成

当日の運営

アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

後援団体への事後報告書の提出

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

JR・バスの時刻表などアクセスを丁寧にする。乗り換えが大変。

(11)活動を行ううえでの課題等

売店など皆目ないので弁当などの用意を強調すること

(12)その他

次の案内をしっかりとしておくこと チラシの準備

1.4 木津川の川調べ 親子自然観察会(昆虫)

(1)活動目的

40年前の木津川は一面が白砂で樹木など影も形もなかった。上流のダム建設により水量が調整され、大きな出水が無くなり、故薄意識への浸水も少なくなってきたため、木が大きくなり、今日では林状を呈するようになってきた。従来草に加えて樹木の昆虫も発見できるようになってきた。

この木津川ではジャコウアゲハとホソオチョウによる在来種と外来種の関係が特に面白く、自然を身近に接する機会として親子自然観察会を開催する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		実施計画の立案 広報手配 参加呼びかけチラシの作成と配布 雨天対策企画と会場確保 後援申請
	5 月		
	6 月	27 日(日)実施	現地確認 資料作成 講師とスタッフの依頼と確保 結果のまとめ 後援団体への報告書提出
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

流域住民 50人(小学生以下は保護者同伴)

(3)実施内容

昆虫に関するお話

講師 桜谷保之(近畿大学教授)

指導者 野村治 姫野涼太郎 浅田聡史(京都大学院生)

スタッフ 福井波恵 田中秀行 大村幸正 森島保 大植登

プログラム

9:00 スタッフ集合 日程確認

9:30 受付

10:00 開会のセレモニー 挨拶

講師紹介 自己紹介 注意点連絡

10:15 観察会場に移動

10:30 観察を開始 適当な時間に休憩と解説

11:00 養蜂農家からミツバチのお話を聞く

11:15 帰路に着く

11:45 住民センターにてまとめ 採集昆虫の説明

12:00 木津川レンジャーについて説明

12:10 解散

(4)実施日

平成22年6月27日(日)

(5)実施場所

木津川左岸 京田辺市 山城大橋～近鉄鉄橋 約 1km



(6)広報・募集方法

- 河川レンジャー ホームページで募集
- 運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
- 一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
- やましろ里山の会ホームページ掲載
- 週刊ニュースで参加呼びかけ
- 運営会議対象区域内の学校教育機関
- 図書館などでの募集案内チラシ置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

- | | | |
|--------|------------------------|------|
| 講師 | 指導者 | スタッフ |
| 協力スタッフ | やましろ里山の会:5名(運営補助、安全管理) | |
| 講師(予定) | 桜谷保之(近畿大学教授) | |
| | 昆虫と植物に関するお話 | |

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送

案内チラシの郵送

小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付

マスコミ各社への催事案内記事の提供

資料、アンケートの印刷

講師謝金の支払い

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載

自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ

募集案内チラシの作成

当日の運営

アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

後援団体への事後報告書の提出

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

雨天時企画を準備する せせらぎホールの借用

資料作成 昨年確認した昆虫のリストなど

(11) 活動を行ううえでの課題等

自転車に対する安全対策をしっかりとること

低学年や幼児の参加に対しては、暑さ雨対策を十分に考慮すること

(12) その他

1.5 木津川の川調べ 川で遊ぼう 魚をとろう

(1)活動目的

河川の整備、ダムの建設によって川の環境が大きく変わる中、木津川に生育する魚の種類も多く、堤防や河川敷の動植物の豊かさなど自然の姿を多く残している。少しは改善されたとはいえ、ペットボトルや空き缶や生活ゴミ、生活排水による水質浄化、砂利の蓄積によるワンドの減少、外来種やカワウなどによる魚類をはじめとする水生生物の減少は事実です。また、川の汚れと、事故への危険から子どもたちを遠ざけられていることもあり、川との関わりはますます少なくなっている。

このような現実の中、川で遊ぶことは、子どもたちにとって貴重な体験になっている。文句なしに楽しいこと、川の抱えている多くの課題に気づくこと、川を愛し親しむ心を育てることが川を守り育てることにつながっていきます。

昨年度の取り組みでは3回で800人の申し込みがあり、安心して参加できる催しに大きな期待が寄せられました。

「川で遊ぼう 魚をとろう」は以下の目的のもとに実施します。

- 1 木津川に生息する魚、水生生物を捕まえる楽しさを経験し、木津川に様々な生き物がいることを知る。
- 2 魚の事や水質検査を通して、木津川の現状を知り、木津川への関心を高める。
- 3 親子で自然に親しむ活動を体験することで自然環境への関心を高める。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		実施計画の立案 会場の確認 駐車場の確保 広報の手配 参加呼びかけの手配 チラシの配布 講師とスタッフの手配 雨天対策として会場確保 後援依頼
	6 月		借用物手配
	7 月		
	8 月	22 日(日)実施	会場への通路整備 資料作成 案内看板の作成と設置 安全対策の打合せ 講師スタッフの打合せ 水質検査手配 結果とまとめの作成 後援団体への報告
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 150 人(小学生 80 名 保護者 50 名)

(3)実施内容

講師

指導者 山田信人(元木津高校教諭) 上田光弘(自然愛好家)

スタッフ 中西はる江 北波ヒロコ 吉川禮子 大村幸正 森島保
山本雅晃 黒光輝政 徳田武治 深田三郎 近藤宏一
伊藤千恵子 その他数人

プログラム

9:30	集合 受付
9:40	ミーティング 諸注意
10:00	魚とり開始
10:40	休憩
11:00	第2回目魚取り
11:40	休憩
12:00	まとめと閉会挨拶 感想文の提出
12:10	解散 後始末

(4)実施日

平成 22 年 8 月 22 日(日)

(5)実施場所

山城大橋下 青谷川河口



(6) 広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましろ里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関
図書館などでの募集案内チラシ置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましろ里山の会 : 5名 (運営補助、安全管理)
講師 (予定) 山田信人 (元木津高校化学部顧問)
水質調査についてお話

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送
案内チラシの郵送
小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付
マスコミ各社への催事案内記事の提供
資料、アンケートの印刷
講師謝金の支払い
通路の草刈り
スタッフの昼食の提供の検討
参加費の徴収の可否 検討

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成
当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ
後援団体への事後報告書の提出

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

魚 鳥 水質の3部門の取組体制を整える (分担をする)

(11)活動を行ううえでの課題等

スタッフの昼食支給が必要と思われる。完全ボランティアでは心苦しい。

(12)その他

1.6 木津川の川調べ ツバメのねぐら入り

(1)活動目的

近畿地方で最も多くのツバメが集中するのが観月橋の葦原だと言われています。東西南北から戻ってくる姿は圧巻である。日本にこのような鳥の集中する場所がこんな身近に存在しているのかと言うのが参加者の感想である。

しかし実際にこの場所を訪れた方々は少ない。それは夕暮れの短時間のセレモニーだからである。ここでの体験から自然の姿を知り、地球環境保全の必要性を理解されるきっかけとして開催する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		実施計画の立案 会場の確認 案内チラシの作成 参加呼びかけの手配 雨天対策の検討
	6 月		借用物の手配
	7 月		
	8 月	7 日(土)実施	会場への通路確認 資料作成 安全対策の打合せ 講師・スタッフの打合せ 結果とまとめの作成
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 50人まで

(3)実施内容

講師 梶谷啓次(京都市観光ガイド)

指導者 山本雅晃

スタッフ 中西はる江 近藤宏一 鈴木由紀枝

プログラム

14:00 集合 伏見駅改札口 開会セレモニー

14:20 インクラインの見学 疎水

16:00 大蔵酒造記念館見学 竜馬ゆかりの寺田屋

18:00 観月橋 夕食 ツバメと巨椋池の解説など

19:00 ツバメのねぐら入り観察

19:40 解散

(4)実施日

平成 22 年 8 月 7 日(土)

(5)実施場所

伏見駅、琵琶湖疎水、大倉記念館、寺田屋、観月橋



(6) 広報・募集方法

河川レンジャーホーム ページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関
図書館などでの募集案内チラシ置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会 : 5名(運営補助、安全管理)
講師(予定) 梶谷啓次 伏見疎水とインクラインの話
未決定 ツバメと巨椋池のお話

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送
案内チラシの郵送
小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付
マスコミ各社への催事案内記事の提供
資料、アンケートの印刷
講師謝金の支払い

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成
当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

 昨年経験から右岸からのツバメの観察は無理とすることがわかった
 今年は、左岸への移動時間をとる

(11) 活動を行ううえでの課題等

 市内の通行では交通安全対策を重視すること

(12) その他

1.7 木津川清掃 クリーンウォーク

(1)活動目的

レンジャー活動を始める前から里山の会として清掃活動を行ってきた。その後京田辺生活学校の皆さんが参加いただき共同作業を行うようになり、この時期の恒例の取り組みとなっている。事前の看板案内での呼びかけに応じてくれる人も出現するなど定着している。規模は小さいが継続実施をする。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		実施計画の立案 京田辺市広報での案内記事 提供 参加呼びかけのチラシ作製 チラシの配布 後援申請
	5 月		参加団体との打合せ 案内看板設置 10 本
	6 月	5 日(土)	資料作成 收拾物の撤収確認 結果まとめ 後援団体への報告書提出
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

京田辺市域の方々など

定員 30人

(3)実施内容

作業範囲 山城大橋～手原川の堤防天場のサイクリングロードなど

スタッフ 里山の会:3人 大村幸正 芳川禮子 森島保

プログラム

10:00 集合 自己紹介 班分け

10:15 上流班 下流班に分かれて清掃開始

11:45 作業終了 まとめ 解散

(4)実施日

平成 22 年 6 月 5 日

(5)実施場所

山城大橋～手原川

集合 京田辺市木津川運動公園 近鉄鉄橋下



(6) 広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
京田辺市広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関
図書館などでの募集案内チラシ置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ
協力スタッフ やましる里山の会 : 5名 (運営補助、安全管理)

(8) 必要支援内容

国土交通省 募集案内チラシの印刷と郵送
案内チラシの郵送
小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付
マスコミ各社への催事案内記事の提供
資料、アンケートの印刷
ゴミ袋の支給 収集ゴミの早期回収 はさみの貸し出し
飲料水の提供 (湯茶の接待)

自治体 自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成 当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

1.8 木津川清掃 クリーンアップ 全域(福井 R、田中 R と共同実施)

(1)活動目的

木津川の両岸には農耕地があり、堤防上の散策は大変気持ちのいいものがある。一方不法投棄も行われやすいところである。

この3年間木津川中流域全域の清掃を広く呼びかけてきた。こうした中で散策の人々との顔見知り徐徐にひろがり協力者が生れるようになってきた。今回も呼びかけポスター50本を掲示視する。

レンジャーが3人と増えたので3ブロックに分割して実施する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		実施計画の企画 呼びかけチラシの作製 沿線自治体の広報誌に呼び かけ掲載依頼 施設利用団体への参加呼び かけ
	5 月		呼びかけポスターの設置 参加表明団体との打合せ
	6 月	20 日(日)	資料作成 収集ゴミの早期撤収と確認 結果まとめ 参加団体などへの結果報告
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民 木津川施設利用者

定員 無制限(小学生以下は保護者同伴)

(3)実施内容

呼びかけに賛同される皆さんや団体が自主的に参加していただく
収集ゴミの場所を堤防上に設定し、レンジャーまで連絡をいただく
木津川主張所が速やかに撤収する

大型ゴミの持ち込みが予想されるので当日撤収を検討する

ゴミ袋は事前に請求があれば配布する

(4)実施日

平成 22 年 6 月 20 日(日)

(5)実施場所

恭仁橋～八幡市・京阪電車鉄橋



(6) 広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関
図書館などでの募集案内チラシ置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ
協力スタッフ やましる里山の会 : 5名 (運営補助、安全管理)

(8) 必要支援内容

国土交通省	募集案内チラシの印刷と郵送 案内チラシの郵送 小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付 マスコミ各社への催事案内記事の提供 資料、アンケートの印刷 ゴミ袋の支給 はさみの貸し出し 収集ゴミの早期撤収
自治体	自治体広報紙での催事案内記事の掲載 自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成 当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ
後援団体への事後報告書の提出

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

1.9 木津川植物モニタリング(全域)

(1)活動目的

堤防は人々の暮らしや財産を水害から守る役割を持っている貴重な施設である。この施設の管理の一つに堤防の草刈が行われている。木津川は河川の砂を使った堤ですから貧栄養ですから貴重な植物が生育しています。

かなり以前、堤防の草は家畜などの飼料や堆肥の原料に使っていました。ところが農業の機械化などで堤の草の必要性が無くなり草刈が行われなくなりました。

しかし、国交省の河川管理上おこなわれている堤防の草刈は、結果的に以前の自然管理の役割を踏襲維持されて、貴重植物の育成に大きな貢献をしています。やましる里山の会の調査によって、木津川には 917 種の植物が生育し、そのうち絶滅危惧植物 27 種を確認しています。また、絶滅危惧種には指定されていませんが、見かけることが少なくなった花の大群落(花のジュータン)もあちこちに残されています。こうした素晴らしい自然を保全するために、モニタリング調査を実施します。今年も群落に焦点を当ててみたいと思う。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月	2回	モニタリング
	5月	2回	モニタリング
	6月	2回	モニタリング
	7月	2回	モニタリング
	8月	2回	モニタリング
	9月	2回	モニタリング
	10月	2回	モニタリング
	11月	2回	モニタリング
	12月	1回	モニタリング
平成 23 年	1月	2回	モニタリング
	2月	2回	モニタリング
	3月	2回	モニタリング

(3)実施内容

スタッフ 大村幸正 森島保 伊藤千恵子 芳川禮子
プログラム

(4)実施日

毎月 1 回以上

(5)実施場所

恭仁大橋～八幡管理分界点



(6)広報・募集方法

特別に募集はしない

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会:5名(運営補助、安全管理)

(8) 必要支援内容

国土交通省

交通費の支出

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

目視点検から地点記入帳の使用

写真撮影の実施

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

1.10木津川植物モニタリング(全域)

(1)活動目的

木津川での貴重植物をはじめ生育植物調査を実施してきた。木津川の植物標本庫に 917 種 2300 点に及ぶ植物標本を管理保存している。この資料を基に夏休み時期に植物展示と、植物標本の作成指導などを行う。

この展示会を通じて、国交省が行っている堤防安全監視のための草刈り作業が、実は貴重植物の保全に大役を果たしているという事実をお知らせするために開催する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		展示植物の確定 実施計画の企画 後援申請大阪府 枚方市など 大阪府教育委員会 枚方市教育委員会など
	6 月		案内チラシの作成と配布
	7 月	1 日 ~ 31 日	植物採取と標本化指導など
	8 月	1 日 ~ 31 日	植物採取と標本化指導 貴重植物のお話など 結果のまとめ 後援団体への報告書提出
	9 月		
	10 月		
	11 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

淀川流域住民

定員 来訪者全員

(3)実施内容

木津川堤防に生育する植物の標本と写真を展示し植物解説を行う。

適宜植物採集と標本化指導の実施

講師を招き「木津川の植物から見た特性」の講演会の開催

講師 未定

指導者 津軽俊介 氏 花明山植物園館長

スタッフ 木津川管内河川レンジャーの応援

里山の会スタッフ 5人

プログラム 別途検討する

(4)実施日

未定

(5)実施場所

枚方市淀川資料館 展示場



(6) 広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載 週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などで募集案内チラシを置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ
協力スタッフ やましる里山の会 : 5名(運営補助、安全管理)
講師(予定) 光田重幸(同志社大学准教授)植物に関するお話

(8) 必要支援内容

国土交通省 募集案内チラシとポスターの印刷と郵送
案内チラシの郵送
小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付
マスコミ各社への催事案内記事の提供
資料、アンケートの印刷 講師謝金の支払い
自治体 自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成 当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ
後援団体への事後報告書の提出

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

1.11 木津川植物モニタリング(全域)

(1) 活動目的

河川レンジャーの1年間の活動発表と、沿川で活動される諸団体や個人の活動紹介や観察調査の発表の場所として開催する。展示発表参加を通じて諸団体の連携理解の交流の場とする。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月		
	5月		
	6月		木津川展企画の決定 募集要項案の作成 後援申請
	7月	募集要項の発送	発表団体の募集要項決定 諸団体へ案内状の送付
	8月		
	9月		
	10月		第1次締切り 追い込み
	11月		
	12月		発表団体の決定と展示打合せ
平成 23 年	1月		全体説明会
	2月	12～20日 1週間	結果のまとめ 後援団体への報告書提出
	3月		

(2) 参加対象者・定員

特になし 出展団体数 5～10団体

(3)実施内容

講師 指導者 スタッフ
プログラム

(4)実施日

平成 23 年 2 月 12 日 ~ 20 日

(5)実施場所

京都府木津川市山城町 北河原 木津川出張所管内流域センター



(6)広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などで募集案内チ
ラシを置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会 :5名(運営補助、安全管理)

講師(予定) 光田重幸(同志社大学准教授)植物に関するお話

(8)必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシとポスターの印刷と郵送

案内チラシの郵送

小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付

マスコミ各社への催事案内記事の提供

資料、アンケートの印刷

講師謝金の支払い

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載

自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ

募集案内チラシの作成

当日の運営

アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

後援団体への事後報告書の提出

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

1.12 木津川ってどんな川 木津川出前講座

(1)活動目的

「木津川はどんな川」のスライドを用いて木津川出張所管内の自治体や河川施設利用団体を訪ね出前講座を開かせていただく。取り組みを通じて木津川の姿の理解を進め、木津川や河川の課題、水問題や環境問題への関心を高め、身近に木津川を引き寄せていただくために出かけていく。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		資料、写真などの収集と整理
	5 月	出前講座 要望のある地域 へ	資料、写真などの収集と整理
	6 月		資料、写真などの収集と整理
	7 月		資料、写真などの収集と整理
	8 月		資料、写真などの収集と整理
	9 月		資料、写真などの収集と整理
	10 月		資料、写真などの収集と整理
	11 月		資料、写真などの収集と整理
	12 月		資料、写真などの収集と整理
平成 23 年	1 月		資料、写真などの収集と整理
	2 月		資料、写真などの収集と整理
	3 月	結果のまとめ	資料、写真などの収集と整理

(2)参加対象者

定員 特になし

(3)実施内容

プログラム 開始から約 1 時間

(4)実施日

随時

(5)実施場所

運営会議地域内

(6)広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載 週刊ニュースで参加呼
びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などで募集案内
チラシを置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

(8)必要支援内容

国土交通省

自治体 自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

要望に応じて実行 主催者との打合せによって開催
当日の運営 アンケートのまとめ 活動報告のまとめ
スライドの解説文の作成記入

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

1.13 木津川ってどんな川 京田辺市文化祭展示出展

(1)活動目的

各地で開催される催しで活動紹介展示などによって、レンジャー活動への理解を得られ始めてきた。昨年の取組の中でささやかであったが評価を得た。即効的な効果は見られないが、地道な積み重ねによって理解を深めることが出来る。こうした狙いをもって今年も参加する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		展示企画の決定
	9 月		展示物の製作
	10 月	30・31 日	展示発表 実施結果をまとめる
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

定員 特になし

(3)実施内容

河川レンジャー活動で得た成果や取り組みを紹介する

(4)実施日

平成 22 年 10 月 30 日、31 日

(5)実施場所

京田辺市中央体育館



(6)広報・募集方法

特別な手立てはとらない

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ やましる里山の会 :5 名

(8)必要支援内容

国土交通省 自治体

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
協力スタッフの依頼及び打合せ

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

1.14 木津川ってどんな川 せせらぎ祭りへの出展展示

(1)活動目的

各地で開催される催しで活動紹介を展示することは、レンジャー活動を広く宣伝する場として最適である。昨年ささやかであったがこのような取り組みをすところがあったと評価を得た。昨年は台風とインフルエンザの流行で中止となったが、地道な積み重ねによってレンジャー活動と木津川についての理解を深めるために今年も参加する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		展示企画の決定
	10 月		展示物の製作
	11 月	13 日、14 日	展示発表 実施結果をまとめる
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

特になし

(3)実施内容

河川レンジャー活動で得た成果や取り組みを紹介する

(4)実施日

平成 22 年 11 月 13 日、14 日

(5)実施場所

京田辺市中部住民センター セセラギホール



(6)広報・募集方法

特別な手立てはとらない

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ やましる里山の会 :5 名

(8)必要支援内容

国土交通省 特になし

自治体 特になし

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案

協力スタッフの依頼及び打合せ

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

1.15 地域で考えよう防災

(1)活動目的

今日の異常気象は局所集中雨といわれる顕著な形になってきている。
昨年度実施した洪水体験や土嚢づくり、水害体験談の取組みには200人をこえる申し込みがあり、急遽時間延長を行わなければならないという大勢の申し込みを受けた。かなりこうした取組みに関心が高まってきている。

今年は八幡市で会場を設定し、八幡排水機場の見学も取り入れて開催する。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月		実施計画の立案 会場決定(予定・八幡小学校) 案内チラシの作成 参加呼びかけの手配 雨天対策の検討 後援申請
	5月		借用物の手配
	6月		
	7月	24日、25日	会場への通路確認 資料作成 安全対策の打合せ 講師・スタッフの打合せ 結果とまとめの作成 後援団体への報告書提出
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
平成 23 年	1月		
	2月		
	3月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 1日:150人 2日間 300人

(3)実施内容

水害体験談 土嚢づくり 水没ドア開閉体験
汚水流水の歩行体験 排水機場の施設見学
プログラム 10:00 開会セレモニー 諸注意 洪水体験談
10:35 汚水流水 水没ドア 土嚢造り
11:55 排水機場見学
12:30 解散

(4)実施日

平成 22 年 7 月 24 日、25 日 2 日間

(5)実施場所

八幡市 八幡小学校校庭



(6)広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましろ里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などで募集案内
チラシ置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会 :5名(運営補助、安全管理)

講師(予定) 裕永氏

(8)必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送

案内チラシの郵送

小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付

マスコミ各社への催事案内記事の提供

資料、アンケートの印刷

講師謝金の支払い

水没体験などの体験器具一式の提供(提供決定を早期にする)

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載

自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ

募集案内チラシの作成

当日の運営

アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

後援団体への事後報告書の提出

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

要員の配置については、国交省側の人々でかなり賄っていただいた。

一般動員の人では、要領が呑み込めず、難しい作業のように見える。

(職員の皆さんが客扱いに慣れておられることがよく判った)

(11)活動を行ううえでの課題等

要員配置のための作業内容がわかる詳細図が必要である。

(12)その他

1.16 防災施設の見学会

(1)活動目的

木津川沿川ではもともと木津川は天井川と言われ、暴れ川とも言われ、地域住民に恐れられてきた。そして今日では堤防が破堤するといった災害はしばらく見られないが、その危険性は大きい。又支流の水は総て旧巨椋池に集中し三川合流部で淀川に合流している。こうした中沿川に設置されている排水機による水害防止の取られていることすら忘れ去られてきています。

これらの水害対策施設を知り、地域での危険性を再認識していただく場として開催する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		実施計画の立案 会場の確認 駐車場の確保検討 案内チラシの作成 参加呼びかけの手配 雨天対策の検討 後援申請
	5 月		借用物の手配
	6 月	施設の試運転時期に合わせる	資料作成 安全対策の打合せ 講師・スタッフの打合せ 結果とまとめの作成 後援団体への報告書提出
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民（小学生以下は保護者同伴）

定員 50人以内(交通手段各自:自家用車での参加)

(3)実施内容

講師 施設の職員

指導者 河川レンジャー

スタッフ 里山の会 5名

プログラム 午前中で終了する 10時開催 12時解散

(4)実施日

平成 22 年 6 月

(5)実施場所

久御山排水機場



八幡排水機場



天ヶ瀬ダム



喜撰山揚水式発電所



(6) 広報・募集方法

河川レンジャーホームページで募集
運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内
一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内
やましる里山の会ホームページ掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などで募集案内
チラシを置く

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ
協力スタッフ やましる里山の会 : 5名 (運営補助、安全管理)
講師 (予定) 各施設の職員さん

(8) 必要支援内容

国土交通省 募集案内チラシの印刷と郵送
案内チラシの郵送
小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付
マスコミ各社への催事案内記事の提供
資料、アンケートの印刷
自治体 自治体広報紙での催事案内記事の掲載
自治体内での同様活動団体の紹介

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き
講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ
募集案内チラシの作成 当日の運営
アンケートのまとめ 活動報告のまとめ
後援団体への事後報告書の提出

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

1.17 木津川沿川活動団体交流会

(1)活動目的

第二回交流会は 47 名の出席があり木津川への関心の高さが明らかになった。特に手区別点検記念物に指定されているイタセンパラの回復に深い関心が示され、同時に支流にもわが川という認識の深さが明らかにされた。同時に多くの参加があったことによる活動への確信や自信も大きく評価され、明日への元気な活動へつながるものであった。こうした沿川流域の出の活動団体や個人の情報交換の場としての役割を果たしていくために第3回交流会を開催する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		実施企画の立案 資料作成 安全対策の打合せ 講師・スタッフの打合せ 結果とまとめの作成 後援団体への報告書提出
	12 月		借用物の手配
平成 23 年	1 月	22 日 (土)	資料作成 安全対策の打合せ 講師・スタッフの打合せ 結果とまとめの作成 後援団体への報告書提出
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民 定員 150人

(3)実施内容

活動内容のポスター展示発表

活動内容のプレゼンテーション

基調講演

分散会交流会

講師 指導者 スタッフ

プログラム 午前9時30分～14時まで

(4)実施日

平成23年1月22日(土)

(5)実施場所

京田辺市福祉センター または 中部住民センター



(6)広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集

運営委員会対象区域内の自治体広報紙での募集案内

一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内

やましろ里山の会ホームページ掲載

週刊ニュースで参加呼びかけ

運営会議対象区域内の学校教育機関、図書館などでの募集案内チラシを置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会 :5名(運営補助、安全管理)

講師(予定)光田重幸(同志社大学准教授)植物に関するお話

(8)必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシの印刷と郵送

案内チラシの郵送

小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付

マスコミ各社への催事案内記事の提供

資料、アンケートの印刷

講師謝金の支払い

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載

自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ

募集案内チラシの作成

当日の運営

アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

後援団体への事後報告書の提出

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

できるだけ早く丁寧な要綱作成を行い、呼びかけを行う

これまでの出席団体の情報交流を図って互いに近づくになれるようにする

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

2. 木津川管内河川レンジャー 福井 波恵

2.1 活動テーマと活動分野

木津川出張所管内を活動エリアとする 福井 波恵レンジャーは以下の活動テーマのもと、9つの活動を実施します。

活動テーマ

木津川流域の自然観察、体験活動、クリーン活動を通して木津川に関心を持ち、環境を良くしていこうとする人々を育てる。

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
河川の環境保全を図る活動	親子川の学校 ジャンボタニシの駆除 木津川クリーンアップ (共同) 木津川モニタリング
防災・救援・救難の推進を図る活動	地域で考えよう 防災 (共同)
河川に係わる歴史・文化の普及・啓発活動	木津川市環境祭展示 木津川展 (共同) 出前授業
行政と住民のコーディネート	木津川沿川活動団体交流会 (共同)

2.2 親子川の学校

(1)活動目的

昨年は3回の川の学校と3回の魚とりを行い、延べ600名の親が川遊びを楽しみ、木津川と生き物を身近に感じる事ができた。その中で中心的に取り組んだ子どもたちは「近畿 水辺交流会」に参加して木津川での体験を発表し近畿の仲間と交流を深め、それぞれが今後の活動の課題を明確化できた。親子川の学校の生徒を募集し、スクール制にして様々な活動を経験し、その活動をまとめて木津川展で発表させたい。そうすることで、川に関心を持ち、より積極的に川に係わる仲間と川ガキを育てることができると考え開催します。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月	25日(日)親子川の学校開校式	・実施計画の立案・広報準備 ・生徒募集・開校準備
	5月	16日(日)親子川の学校 IN 鹿川	・会場、スタッフ手配・講師依頼 ・広報活動・資料作成 ・講師スタッフとの打ち合わせ
	6月	13日(日)親子川の学校 IN 和束川	同上
	7月		
	8月	8日(日)親子川の学校 IN 笠置川・白砂川	同上
	9月	5日(日)親子川の学校 IN 上狛川 ジャンボタニシの駆除	同上
	10月	10日(日)親子川の学校 砂防歴史公園砂防ダム見学 まとめ	同上
	11月		
	12月		
平成 23 年	1月		
	2月	12日(土)～20日(日) 木津川展展示発表	まとめ
	3月		

(2)参加対象者・定員

- ・参加対象者:運営会議対象区域内の流域住民
(小学生以下は保護者同伴)
- ・定員:50人/回

(3)実施内容

- ・川ってどんな川 (河川レンジャー)
- ・魚調査 (河川レンジャー)
- ・水質検査 (講師:山田信人氏)
- ・デ・レーケ砂防堰堤の話(講師:山守和良氏)
- ・当日のプログラム
 - 9:30 集合
 - 9:50 河川レンジャーの挨拶・活動の趣旨説明、講師の紹介
 - 10:00 山田氏による水質調査の方法説明、実施
 - 10:30 魚調査
 - 11:40 魚と川の話
 - 11:50 アンケート
 - 12:00 解散

(4)実施日

- 4月25日(日)親子川の学校開校式
(集合場所:木津川市木津川流域センター)
- 5月16日(日)親子川の学校 IN 鹿川
(集合場所:木津川市中央体育館駐車場)
- 6月13日(日)親子川の学校 IN 和束川
(集合場所:和束町中公民館)
- 8月8日(日)親子川の学校 IN 笠置川・白砂川
(集合場所:笠置町 いこいの館駐車場)
- 9月5日(日)親子川の学校 IN 上狛川 ジャンボタニシの駆除
(集合場所:木津川市山城町 JA 山城駐車場)
- 10月10日(日)親子川の学校 砂防歴史公園 砂防ダム見学・まとめ
(集合場所:木津川市木津川流域センター)
- (2月13日(日)~19日(土)木津川展 学習した内容の展示発表)
(集合場所:木津川市木津川流域センター)

(5)実施場所

4月25日(日)親子川の学校開校式
(木津川市木津川流域センター)



5月16日(日)親子川の学校 IN 鹿川
(木津川市中央体育館駐車場)



6月13日(日)親子川の学校 IN 和東川
(和東町中公民館)



8月8日(日)親子川の学校 IN 笠置川・白砂川
(笠置町いこいの館駐車場)



9月5日(日) 親子川の学校 IN 上狛川 ジャンボタニシの駆除
(木津川市山城町 JA 山城駐車場)



10月10日(日) 親子川の学校 山城町砂防歴史公園 砂防ダム見学・まとめ
集合 木津川市木津川流域センター



(6) 広報・募集方法

- ・淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
 - ・やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
 - ・運営会議対象区域内の公共施設への募集案内の送付
(3月1日～4月17日)
- 申込締切日： 4月17日

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

- 協力スタッフ: やましる里山の会: 5名(運営補助、参加者へ安全指導)
講師: 水質検査(講師: 山田信人氏)
デ・レーケ砂防堰堤の話(講師: 山守和良氏)

(8) 必要支援内容

- 国土交通省 資料・アンケート用紙の印刷
河川レンジャーのぼりの借用
バインダーの借用 会場使用料の支給
カヌー体験の使用料支給
やましる里山の会 網、水槽の借用

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・実施計画の立案
- ・講師・協力スタッフの手配、打合せ
- ・会場の手配
- ・資料作成
- ・広報活動
- ・当日の運営
- ・アンケート結果のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

昨年度の活動で、川に関心を持つ仲間がずいぶんと広がった。その仲間たちがこの取組に参加することで、川により積極的に取り組む高い意識を持つことができるようになることを考える。
また、活動をまとめることで次への課題が明確になることを期待している。

(11) 活動を行ううえでの課題等

様々な体験活動に必要な使用料を援助していただきたい。

(12) その他

2.3 上狛川ジャンボタニシ駆除

(1)活動目的

山城国一揆の国人を代表する狛氏の環濠集落を囲んで流れる上狛環濠水路は、山城町の歴史的遺物である。現在は、上狛川とよばれ、生活排水路、稲作用水路として利用されているが、水量の減少と水質悪化により、ジャンボタニシが大量発生するようになり、その歴史的景観を損なう事態になった。昨年は、上狛東部農地保全会と一緒に3回の卵駆除を行ったが、周辺の水路と水田入りこみ、稲に被害を及ぼすなど、被害が拡大してきた。この取組の中で、木津川市農政課に「有害生物ジャンボタニシによる被害事前対策についてのお願い」を5団体とともに提出し、行政の支援をお願いすることになった。この取り組みを行政と地域の諸団体と協力して取り組むことが、歴史的遺産を守るという地域づくり、川環境作りにつながっていくと考える。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成22年	4月		
	5月		活動計画の立案 諸団体との会議 諸団体への呼び掛け
	6月		上狛川ジャンボタニシ駆除の看板立て、チラシ作製、資料作成、道具の準備
	7月	4日(日) 上狛川ジャンボタニシ駆除	当日の運営
	8月		チラシ作製、配布道具の準備
	9月	(5日親子川の学校 IN 上狛川ジャンボタニシの駆除)	当日の運営 活動のまとめ
	10月		
	11月		
	12月		
平成23年	1月		
	2月		
	3月		

(2)参加対象者・定員

参加対象者：木津川市住民 小学生以下は保護者同伴

定員：特になし

(3)実施内容

- 9:00 集合、受付
- 9:10 河川レンジャー挨拶 参加者自己紹介
- 9:20 ジャンボタニシの説明と駆除の注意
- 9:30 4 駆除活動と魚調査
- 11:30 反省会
- 12:00 解散

(4)実施日

7月4日(日) ジャンボタニシ駆除と魚調査

9月5日(日) ジャンボタニシ駆除と魚調査

(5)実施場所

上狛川横 木津川市山城町 JA 山城駐車場集合



(6) 広報・募集方法

淀川管内レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
やましる里山の会ホームページの募集案内の掲載
木津川への募集案内の送付
公共施設にチラシ配布
山城町上狛、椿井地区長への案内、各諸団体への案内
山城町防災無線での放送、掲示板展示

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

スタッフ依頼 : 上狛川を美しくする会、野遊、里山の会より 5 人

(8) 必要支援内容

国土交通省

チラシ、資料・アンケート用紙の印刷

河川レンジャーのぼりの借用 バインダーの借用

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 協力スタッフ依頼と手配 打ち合わせ

募集案内チラシの作成 広報活動、参加者募集

安全通路の確保と現地下見

参加申込受付 参加者名簿の作成

資料作り 当日の運営 アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

ジャンボタニシの卵は 2 週間で貝になると言われているので、2 週間ごとに卵を水中に落としていけば その繁殖を抑えることができるといわれている。また、上狛川の側道を散歩していてもジャンボタニシの事を知らない住民がまだ多い。

側道に看板を立て啓発と取り組みへの参加を呼び掛けたい。

また、ジャンボタニシ駆除デーを設置したり、小中学校への呼び掛けをするなど工夫をしていきたい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

2.4 木津川クリーンアップ (山村 R、田中 R 共同実施)

(1)活動目的

木津川右岸の北部地域は、農耕地が隣接すると同時に中流域では川が堤防まで迫り、主要国道が堤防上を通っている。左岸では、全域で一部人家の接近が見られるが比較的農耕地が広がり元風景も残され、散歩やサイクリングなど自転車道を利用する人が多い。

また、夏に近づくにつれ、川原や橋の下でバーベキューを行う人が増え、その周りに大量のゴミの放棄が見られる。そのゴミは、木津川に吹き込まれ、大雨とともに淀川へと流されていく。

今年で4回目になり、ポスターを見て活動を知っている人も増えてきている。以上の状況より、次世代へ木津川の環境保全を継承し、より多くの人達が木津川本流にそって清掃する活動に参加して頂くために山村レンジャー、田中レンジャー、福井レンジャーの共同の取り組みとして実施する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		企画立案 広報手配 参加呼びかけ作業 チラシ作製 各団体への案内
	5 月	20 日(木) 呼びかけポスターの貼り出し	参加団体の打ち合わせ 参加名簿作 連絡受付 呼びかけポスターの貼り出し 50 本
	6 月	20 日(日) 木津川クリーンアップ	手袋、ゴミ袋配布 結果まとめ
	7 月		収集物の撤収確認
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

参加対象:運営会議対象区域内的の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 :特に制限なし

(3)実施内容

山村レンジャー・福井レンジャー・田中レンジャー共催で実施。

恭仁大橋から三川合流まで兩岸の土手の天端付近のゴミ拾いを行う。

クリーンアップへの参加呼びかけポスターの設置(50本)を4週間前に行う。

日程

- ・午前中の行動とする。
- ・午後からゴミの撤収を行う。

兩岸の適当な場所に清掃活動への参加呼びかけポスターを50本立てる。

- ・個人の参加の場合はゴミの持ち帰りをお願いする。
- ・団体参加の場合は事前に参加予定人数と清掃範囲、責任者、ゴミ収集予定地の連絡をいただく。
- ・ゴミ袋の提供を行う。事務所まで受取りに来ていただく。
- ・終了時点で河川レンジャーに連絡いただく。

国土交通省に収集ゴミを速やかに収集していただく。

プログラム

9:00	割当エリア集合	開会挨拶	趣旨説明	自己紹介
9:30	現場説明	注意事項の徹底		
9:45	清掃開始			
12:00	昼食			
13:00	ゴミの撤収、ポスター撤去			
15:00	解散			

(4)実施日

平成22年 6月20日(日)

(5)実施場所

呼びかけ範囲 恭仁大橋から三川合流付近までの範囲



(6)広報・募集方法

- ・淀川管内レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・運営会議対象区域内の自治体広報紙への募集案内の掲載
- ・京都、朝日、毎日、洛南タイムスなど新聞各社に募集案内記事掲載と当日取材依頼
- ・やましろ里山の会ホームページへの募集案内の掲載
週刊ニュース掲載
- ・運営会議対象区域内の学校・教育機関・父母の会及び図書館等への募集案内の送付

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ:やましろ里山の会 5名(運営補助、安全管理)

(8) 必要支援内容

・ 国土交通省

募集案内の送付

資料印刷 アンケートの印刷

手袋の支給検討

ゴミ袋の支給検討

収集したゴミの運び出し

呼びかけチラシとポスター

杭の提供 50 本ポスターのラミネート 50 枚 ベニヤ板 50 枚

収集ゴミの撤収

・ 沿川自治体

広報紙での参加呼びかけなど

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

・ 実施計画の立案

・ 協力スタッフ依頼と手配・打合せ

・ 清掃活動参加呼びかけポスターの掲示貼り出し

・ 広報活動

・ 参加者募集 参加申し出の受付

・ ゴミ袋の支給手配

・ 当日の運営

・ 活動報告のまとめ

・ 立看板の撤収

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

ポスター貼り出しを 4 週間前に行う。

(11) 活動を行ううえでの課題等

収集したゴミの撤去を速く行う。

(12) その他

2.5 木津川モニタリング

(1)活動目的

木津川の堤防、河川敷には様々な植物が生育し、河川林には多くの野鳥が生息している。

また、魚の生息している支流、ワンドやタマリは季節により変化しており、魚の生息ポイントを探し、魚を中心として鳥、植物の調査を行い記録することで木津川の自然理解を深め、活動の資料づくりをしていきたい。

とくに、タマリの定点観察を通してタナゴの繁殖状況を調査していくことと、水草の生えている場所の調査を行い、木津川の魚が繁殖できる場所作りの準備としたい。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月	随時2回	カメラ、魚採集用具 記録用紙 望遠鏡
	5月	随時2回	
	6月	随時2回	
	7月	随時2回	
	8月	随時2回	
	9月	随時2回	
	10月	随時2回	
	11月	随時2回	
	12月	随時2回	
平成 23 年	1月	随時2回	
	2月	随時2回	
	3月	随時2回	

(2)参加対象者・定員

参加対象者 : 特に制限はない

定員 : 特になし

(3)実施内容

笠置より山城大橋までの木津川とその支流において観察、撮影、採集を行う。

(4)実施日

年間を通じて1カ月に2回

(5)実施場所

笠置より山城大橋までの木津川とその支流



(6)広報・募集方法

広く公募はしない。

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

里山の会 木津川部会のメンバー

(8)必要支援内容

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

観察、採集、写真撮影、記録

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

木津川の魚たちが繁殖できる場所が年々減ってきている。
ワンドやタマリを整備することを始めていきたい。

(11)活動を行ううえでの課題等

2.6 地域で考えよう 防災(山村 R、田中 R と共同実施)

(1)活動目的

昨年の 10 月 7 日の台風 8 号時の増水は、水の恐ろしさをまざまざと見せつけ、ダムと堤防・防災について改めて考えさせる契機となった。

木津川地域では小規模な洪水も激減して土のう作り等体験していない世代が増えている。木津川堤防についても信頼度は高いが、右岸については一部堤防間際まで流れが迫っている場所もある。こうした時、水害への備えと体験実習は重要である。

昨年は流域センターでの洪水体験、土のうづくり体験は多くの参加者があり好評であった。今年は、木津川下流地域の八幡市で取り組みたい。

山村レンジャー、田中レンジャー、福井レンジャーの共催として交流会成功に向けて取り組んでいきたい。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		企画立案 チラシ作製 自治体後援申請依頼用紙作成 申請依頼
	5 月		
	6 月		チラシ配布(全学校) 実施計画図 プログラム、 準備物、スタッフ会議
	7 月	24 日(土)、25 日(日) 地域で考えよう防災	資料作成 会場設営 結果まとめ
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
平成 23 年	12 月		
	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 1日:150人 2日間 300人

(3)実施内容

水害体験談 土嚢づくり 水没ドア開閉体験

汚水流水の歩行体験 排水機場の施設見学

プログラム

10:00 開会セレモニー 諸注意 洪水体験談

10:35 汚水流水 水没ドア 土嚢造り

11:55 排水機場見学

12:30 解散

(4)実施日

平成 22 年 7 月 24 日、25 日 2 日間

(5)実施場所

八幡市 八幡小学校 校庭



(6) 広報・募集方法

- ・ 淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・ 運営会議対象区域内の自治体広報への募集案内掲載
- ・ やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
- ・ 運営会議対象区域内の小中学校への募集案内

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ： やましる里山の会 20名(運営補助、安全管理)
国土交通省 10名(機械運転、安全管理)
講師 (予定)

(8) 必要支援内容

国土交通省 募集案内印刷
募集案内の送付協力
・ 運営会議対象区域内の自治体及び公的施設への参加案内
送付と広報紙への記事掲載依頼協力
資料・アンケートの印刷

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・ 実施計画の立案 ・ 募集案内チラシの作成とポスターの作成
- ・ 広報活動 参加募集 ・ 借用物の手配と点検
- ・ 参加申し込みの受け付け 参加者名簿の作成 ・ スタッフ会議招集
- ・ 当日の運営 ・ アンケートの作成とまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

洪水体験は水に接する機会の少ない人たちにとって、貴重な体験であり、好評であった。木津川下流域の人たちにも是非体験してほしいので装置の借用をお願いしたい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

運営上多くのスタッフが必要である。里山の会の負担にならないよう他地域のレンジャー達の協力をお願いしたい。

(12) その他

2.7 木津川市環境祭り

(1)活動目的

昨年初めて環境祭りに参加し、パネル、水槽を展示して、ボトルアクアリウム作りを参加者と楽しむことができた。初めての参加で、河川レンジャーの活動、木津川の植物、魚について多くの方に伝えることができた。

今年はさらに、木津川の自然、木津川の抱えている課題をより分かりやすく伝えていき、活動に参加する仲間を増やしていきたい。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		環境祭り参加申込
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		実施計画の立案
	10 月		展示物 魚の準備 ワークショップ準備
	11 月	13 日(土) 環境祭り 木津川の魚たち展示 (木津川市リサイクルセンター)	展示、ワークショップ アンケートまとめ 活動のまとめ
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

参加対象 : 運営会議対象区域内の流域住民

定員 : ワークショップ 50人

(3)実施内容

魚の水槽コーナー

河川レンジャーの展示物コーナー

ワークショップのコーナー (ストーンペイントなど)

(4)実施日

11月13日(土)

(5)実施場所

木津川市リサイクル研修センター



(6) 広報・募集方法

木津川市リサイクルセンターの広報
やましる里山の会ホームページ
木津川市、精華町の公共施設チラシ配布

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ： やましる里山の会 木津川部会 3名
(運営補助、安全管理)

(8) 必要支援内容

国土交通省

チラシ・資料・アンケート印刷
河川レンジャーの展示物準備
大型水槽 1個 小型水槽 2個 エアーポンプ 3個

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案
資料、展示物作成
魚、工作の材料集め
広報活動
協力スタッフ依頼と手配 打ち合わせ
借用物の手配と点検 運営
アンケートまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

展示物を準備する時間がなく、あるものを使ってしまった。
テーマを持って展示物を作成したい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

(12) その他

2.8 木津川展（山村 R、田中 R と共同開催）

(1) 活動目的

木津川の堤防には、917種の植物が生育し、レンリソウを代表とする27種の希少植物が生育している。また、約30種類の魚類を確認し、さまざまな鳥が河原や河川敷の草林に生息している。

この3年間の活動で明らかになってきた豊かな木津川の自然を、多くの流域住民に知らせることで木津川への理解を深め、活動への共感と支援を広げること、木津川にかかわる活動の拠点としての流域センターを知らせていくことを目的として流域センターでの展示を行いたい。また、展示発表参加を通じて諸団体の連携理解の交流の場とする。

山村レンジャー、田中レンジャー、福井レンジャーの共催とする。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月		
	5月		
	6月		木津川展企画の決定 募集要項案の作成 後援申請
	7月		発表団体の募集要項決定 諸団体へ案内状の送付
	8月		
	9月		
	10月		第1次締切り 追い込み
	11月		
	12月		発表団体の決定と展示打合せ
平成 23 年	1月		発表団体の決定と展示打合せ
	2月	2日 12日(土)～20日(日) 木津川展	結果のまとめ 後援団体への報告書提出
	3月		

(2)参加対象者・定員

特になし

出展団体数 5～10団体

(3)実施内容

講師 指導者 スタッフ

プログラム

(4)実施日

2月13日(日)～19日(土) 午前12時～午後15時

(5)実施場所

木津川出張所管内流域センター



(6)広報・募集方法

河川レンジャー ホームページで募集

運営委員会議対象区域内の自治体広報紙での募集案内

一般新聞への案内記事掲載依頼 当日取材案内

やましろ里山の会ホームページ掲載

週刊ニュースで参加呼びかけ

運営会議対象区域内の学校教育機関

図書館などでの募集案内チラシ置く

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

講師 指導者 スタッフ

協力スタッフ やましる里山の会 :5名(運営補助、安全管理)

講師(予定)光田重幸(同志社大学准教授)植物に関するお話

(8)必要支援内容

国土交通省

募集案内チラシとポスターの印刷と郵送

案内チラシの郵送

小学校教育機関、その他名簿に基づく諸団体への送付

マスコミ各社への催事案内記事の提供

資料、アンケートの印刷

講師謝金の支払い

自治体

自治体広報紙での催事案内記事の掲載

自治体内での同様活動団体の紹介

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 後援依頼の諸手続き

講師依頼 協力スタッフの依頼及び打合せ

募集案内チラシの作成

当日の運営

アンケートのまとめ 活動報告のまとめ

後援団体への事後報告書の提出

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

魚展示のための水槽、エアーポンプ、延長コードなどの準備

展示用ボードなどの設備を整えていただきたい。

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

2.9 出前授業

(1)活動目的

小学校の総合学習、クラブ活動や PTA の活動など木津川や川に関係した学習やワークショップ、地域の自然調べが計画されており、子どもたちも楽しんで学習している。

昨年は木津川市の PTA で 1 回、城陽市で 4 回出前授業をしてきたが、レンジャー活動と木津川への理解を広げていく上でも地域教材を開発し、出前授業を積極的に進めていきたい。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	希望を募る。 学校訪問、案内の発送	授業プラン作成
	5 月		授業プラン作成
	6 月	要請に応じて	授業プラン作成
	7 月	出前をする	
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月	↓	活動のまとめ
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

参加対象者 : 小学生
定員 : 特になし

(3)実施内容

木津川、支流の魚調査
ジャンボタニシの駆除活動と川作り
水と遊ぼう 水質検査、水の浄化、ボトルアクアリウムづくり
木津川堤防の植物

(4)実施日

学校の要請による。未定

(5)実施場所

木津川沿川小学校

(6)広報・募集方法

学校訪問、学校へ資料郵送

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

特になし

(8)必要支援内容

国土交通省
資料印刷 教材教具の購入

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

計画作り、資料づくり、学校訪問、打ち合わせ、現地下見、当日の授業感想、アンケートのまとめ、活動のまとめ

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

地域教材を開発して積極的に学校訪問をしていく。

(11)活動を行ううえでの課題等

2.10 木津川沿川活動団体活動交流会(山村 R、田中 R と共同実施)

(1)活動目的

木津川沿川には木津川にかかわる活動をしている団体の交流に取り組んで今回が3回目になり、参加団体、参加人数も増えてきているが、いよいよこれからである。

城陽生き物調査隊、環境生物研究会、野鳥の会、木津川植物同好会、木津川を美しくする会、木津川魚業協同組合、藤田カヌー、加茂の水と緑を守る会、青谷川を美しくする会、木津高校化学クラブ、上狛川を美しくする会・・・そして河川敷を利用するスポーツ諸団体等。

去年は、講演「木津川にイタセンパラは復活可能か」の講演を聞き、城陽生き物調査隊から「青谷川の再生の取り組み」、木津高校化学クラブから「木津川の水質調査」、木津川漁協から「漁協から見た木津川」を発表していただき、木津川の抱えている課題がはっきりとしてきた。

日常的に繋がりを持つようにしていきながら、山村レンジャー、田中レンジャー、福井レンジャーの共催として交流会成功に向けて取り組んでいきたい。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		実施計画の立案 広報手配 チラシ作製 後援依頼申請依頼
12 月		チラシ配布 資料作成 参加者名簿作成 アンケート作成	
平成 23 年	1 月	22日(土) 木津川沿川活動団体活動交流会	当日の運営 活動のまとめ アンケートまとめ
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内の流域住民

定員 150人

(3)実施内容

活動内容のポスター展示発表

活動内容のプレゼンテーション

基調講演

分散会交流会

講師 指導者 スタッフ

(4)実施日

平成 23 年 1 月 22 日(土) 午前 9 時 30 分～14 時まで

(5)実施場所

京田辺市社会福祉センター(京田辺市犬伏 5-8)



(6) 広報・募集方法

- ・ 淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・ 運営会議対象区域内の自治体広報への募集案内掲載
- ・ やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
- ・ 京都、朝日・毎日等新聞各社への募集案内記事提供と掲載依頼

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ： やましる里山の会 木津川部会 5名

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内の送付協力

運営会議対象区域内の実態及び公的施設、活動団体への参加案内送付と広報紙への記事掲載依頼協力

資料・アンケートの印刷

淀川管内河川レンジャーの展示物 配布物準備

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案

参加者募集チラシ 募集案内作成 参加申し込み受け付け

協力スタッフ依頼と手配 打ち合わせ

展示物準備 プログラム、参加者名簿作成

当日の運営 アンケートまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

計画立案、案内状の発送は12月中に行ったが自治体からの参加者が一つもなかったことが残念である。

運営会議参加団体や自治体関係者の方々の協力を仰ぎたい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

昨年のお阪工業大学教授 綾史郎氏の「木津川にイタセンパラの回復は可能か」の講演は多くの参加者の関心を引いたように、木津川の現状を明らかにする魅力的な講演を計画していくことが大切である。

3. 木津川管内河川レンジャー 田中 秀行

3.1 活動テーマと活動分野

木津川出張所管内を活動エリアとする。田中レンジャーは以下の活動テーマのもと、7つの活動を実施します。

活動テーマ

木津川流域の自然観察、体験活動、クリーン活動を定着させ木津川に関心をもった地域づくりと次世代継承の実施。環境を良くしていこうとする人々を育てる。

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
河川の環境保全を図る活動	木津川調査 活動1 野鳥観察会 木津川調査 活動2 川で遊ぼう魚をとろう 木津川清掃 活動3 木津川クリーンアップ
防災・救護・救難の推進を図る活動	防災訓練 活動4 地域で考えよう防災
河川の適正な利用、 歴史・文化の普及活動	流れ橋見学会 活動5 流れ橋はどんな橋 活動展示 活動6 木津川展
行政と住民のコーディネート	活動交流 活動7 木津川沿川活動団体交流会

3.2 木津川調査（活動1 野鳥観察会）

(1)活動目的

木津川流域センターに隣接する高水敷はワンド、水辺、樹木、芦などがあり、鳥観察の好条件を備えている。また、木津川、宇治川、桂川の三川合流地点においては、樹木が多く様々な野鳥が生息している。

四季を通じての野鳥観察から、次世代へ木津川の環境保全を継承し、多くの人達が木津川本流における活動に参加して頂くために以下の目的のもと実施するものとする。

木津川に集まる野鳥の観察を、四季を通じて実施し川環境との関係を学ぶ。

親子で自然に親しむ活動を体験することで自然・環境への関心を高める。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	24 日(土)春の野鳥観察会	会場下見、資料作成、 通路草刈、スタッフ打合せ、 現地下調べ、結果まとめ
	5 月		モニタリング
	6 月		モニタリング 講師下打合せ
	7 月		夏観察チラシ配布
	8 月		モニタリング
	9 月	23 日(木)夏の野鳥観察会	会場下見、資料作成、通路草 刈、スタッフ打合せ、現地下 調べ、結果まとめ
	10 月		モニタリング 講師下打合せ 秋観察チラシ配布
	11 月	3 日(水)秋の野鳥観察会	会場下見、資料作成、通路草 刈、スタッフ打合せ、現地下 調べ、結果まとめ
	12 月		モニタリング 講師下打合せ
平成 23 年	1 月		冬観察チラシ配布
	2 月	13 日(日)冬の野鳥観察会	会場下見、資料作成、 通路草刈、スタッフ打合せ、 現地下調べ、結果まとめ
	3 月		モニタリング

(2)参加対象者・定員

参加対象:運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 :30 人/回(参加者への講演等の理解の徹底と使用する会場の
定員より設定)

(3)実施内容

- ・活動目的説明(河川レンジャー)
- ・野鳥観察方法を教える
 - ・・・スコープ、双眼鏡の使い方、観察の心得等(講師:植田氏)
- ・実際に野鳥を見て種類や特徴の説明をし、集まる野鳥を知ってもらう(講師:植田氏)
- ・雨天の場合、野鳥の展示説明 (講師:植田氏)
- ・当日のプログラム
 - 9:00 集合 開会挨拶 趣旨説明 講師紹介 自己紹介
 - 9:30 現地移動
 - 10:00 現場説明 注意事項の徹底
 - 10:15 野鳥観察開始
 - 11:30 まとめ(観察した鳥の確認) 総括 感想 後片付け
 - 12:00 解散

(4)実施日

実施日:平成 22 年 4 月 24 日(土)、9 月 23 日(木)、11 月 3 日(水)
平成 23 年 2 月 13 日(日)

少雨決行、雨天メニューで実施し、大雨や危険が予測される場合は順延を検討

(開催日の翌週水曜日の予定)

(5) 実施場所

第1回春の野鳥観察会:木津川市山城町北河原

木津川流域センター付近 高水敷と堤防

理由:水鳥観察に適している。

雨天時でも木津川流域センターが使用出来る



第2回夏の野鳥観察会:三川合流地点



第3回秋の野鳥観察会:木津川市山城町北河原

木津川流域センター付近 高水敷と堤防

理由:水鳥観察に適している。

雨天時でも流域センターが使用出来、駐車場も確保可能。



第4回冬の野鳥観察会:木津川市山城大橋付近 高水敷と堤防

理由:水鳥観察に適している。

天候により橋の下が利用可能。駐車場の確保が可能。



(6) 広報・募集方法

- ・ 淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月21日)
- ・ やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(5月1日～8月17日)
- ・ 申込締切日: 第1回 平成22年4月21日(水)
第2回 平成22年9月21日(火)
第3回 平成22年10月29日(金)
第4回 平成23年2月9日(水)

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ: やましる里山の会: 5名(運営補助、参加者への安全対策)
講師: 植田氏(自然体験活動推進協議会インストラクター)

(8) 必要支援内容

国土交通省: 資料・アンケート用紙の印刷
河川レンジャーのぼりの借用
バインダー借用
野鳥下敷き支給
会場草刈り等の整備
やましる里山の会: 観察スコープ

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・ 実施計画の立案
- ・ 講師・協力スタッフの手配、打合せ
- ・ 会場の手配
- ・ 資料作成
- ・ 広報活動
- ・ 当日の運営
- ・ アンケート結果のまとめ
- ・ 参加者への水道使用量調査および調査結果のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

- ・ 昨年の活動では、中流域(流域センター)周辺での活動だけであったので、八幡、城陽周辺など観察会場に広がりをもたせ、よりレンジャーの活動を広めていく。
- ・ 昨年度は鳥の観察で終わっていたが、環境や食物からくる個体数の変化にも目を向け、野鳥と河川の関わりがわかる活動にする。その為に、モニタリングを実施し記録していく作業も実施する。

(11) 活動を行ううえでの課題等

- ・ 地域の文化会館などに募集案内を配布したいが、その施設での活動しか配布案内が出来ないとの理由で、チラシの配布を断られ広がり限界がある。
- ・ 小学生を中心とした活動もしたいが、管理できる児童数に限界があるため、学区単位での活動が出来ないであろうか。

(12) その他

- ・ 他のエリアで活動されている河川レンジャーの方々と連携して、この活動を淀川管内全域で行っていきたい。

3.3 木津川調査(活動2 川で遊ぼう魚をとろう)

(1)活動目的

河川の整備、ダム建設によって、川の環境が大きく変わる中、木津川に生息する魚類の種類も多く(約30種)、堤防・河川敷の動植物を含め自然の姿を多く残している。しかしながら、ここ4年程の魚とり活動において、種類や数が減少している傾向にある。

家庭ゴミの投棄や生活排水による水質の悪化、外来魚のオオクチバスやブルーギルの増加に加え、カワウも年々増加し捕食による固有種や在来魚の減少は着実に進んでいる。また、水量の減少、川底の低下や砂利の蓄積による河川環境の変化により、水の出入りがなくなる等、ワンドの減少や河川敷の森林化が進み、人と川との繋がりが薄らいでゆき、草の茂みにゴミが捨てられ、汚い危険な場所として子供達や地域住民と川の接点が減少している。

以上の状況より、次世代へ木津川の環境保全を継承するために、より多くの人達が木津川本流における活動に参加して頂くために以下の目的のもと実施するものとする。

木津川に生息する魚、水生生物を捕まえる楽しさを経験し、木津川にさまざまな生き物がいることを知る。

魚とりや水質検査を通し、木津川の水質の現状を知り、このままでいくとどうなってしまうのか。或いは、どうすれば良いのかを考える場と時間を共有する。

簡単な救助訓練を通して、川の恐ろしさを知り救助の初歩的な技術を身につける。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	モニタリング	講師依頼・打合せ
	5 月	モニタリング	会場下見 資料作成 通路草刈 スタッフ打合せ チラシ配布
	6 月	モニタリング	借用物手配 (ライフジャケット等)
	7 月	29 日(木) 川で遊ぼう魚をとろう 八幡市流れ橋	会場下見 資料準備 スタッフ打合せ 結果まとめ活動報告
	8 月	モニタリング	
	9 月	モニタリング	
	10 月	モニタリング	
	11 月	モニタリング	
	12 月	モニタリング	
平成 23 年	1 月	モニタリング	
	2 月	モニタリング	
	3 月	モニタリング	

(2)参加対象者・定員

参加対象：運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員：150人(小学生80名、保護者50名、その他20名)

(3)実施内容

- ・活動目的説明(河川レンジャー)
- ・講師 原氏(やましる里山の会)
菊池氏(やましる里山の会)
福井氏(河川レンジャー)
- ・指導 原氏、菊池氏、福井氏3名
・・・魚のとり方、魚の種類と特徴
- ・天候対応プログラム
 - 9:30 集合 受付
 - 9:45 開会挨拶 趣旨説明 講師紹介 現地説明、諸注意
 - 10:00 魚とり開始、採取状況中間報告
 - 10:40 休憩、安全点検
 - 11:00 魚とり開始
 - 11:40 休憩、安全点検
 - 12:00 まとめ(捕れた魚の確認) 総括 アンケート提出
 - 12:10 解散 後始末

(4)実施日

平成22年7月29日(木)

- ・昨年同様、会場の状況により開催場所を岩田地区への変更も視野に置く
- ・原則、雨天実施
- ・河川水位上昇により危険と判断した場合中止し、四季彩館にて講義等実施

(5)実施場所

会場:八幡市 流れ橋周辺

理由:アプローチが比較的安全である。また雨天時でも四季彩館が使用出来る。



代替え会場:八幡市 岩田地区河原(流れ橋会場が濁水の場合)

理由:水位によっては安全で広い会場であり、楽しめる。



(6) 広報・募集方法

- ・ 淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
(5月1日～7月24日)
- ・ やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
週刊ニュースで参加呼びかけ
- ・ 運営会議対象区域内の学校教育機関
図書館などでの募集案内チラシ置く
- ・ 申込締切日：平成22年7月24日(土)

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

- 協力スタッフ：やましる里山の会： 5名(運営補助、参加者への安全対策)
講師：原氏 (やましる里山の会)
菊池氏(やましる里山の会)
福井氏(河川レンジャー)

(8) 必要支援内容

- 国土交通省： 募集案内チラシの印刷、資料・アンケート用紙の印刷と郵送
案内チラシの郵送 小学校教育機関、その他名簿に基づく
諸団体への送付
河川レンジャーのぼりの借用
木津川の下敷き支給
会場草刈り等の整備
ライフジャケット(子供80、大人30)
講師謝金の支払い

やましる里山の会：

- 観察水槽、タモ網、サデ網、机、テント、スピーカー等
- 魚展示

自治体：自治体広報紙での催事案内記事の掲載と当日のボランティア募集
八幡市 四季彩館に募集案内

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

- ・実施計画の立案
- ・講師・協力スタッフの手配、打合せ
- ・会場の手配
- ・チラシ、資料作成
- ・広報活動(チラシ配布等募集、呼び掛け)
- ・当日の運営
- ・アンケート結果のまとめ 活動報告のまとめ

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

- ・過去の活動において、安全管理・準備等をレンジャーの所属団体スタッフに依頼し対応してきたが、より地域の活動として定着させるため、開催2か月前より地域の住民に安全管理、準備手伝い等ボランティアの募集を告知する。
募集案内は八幡市、久御山市の広報、四季彩館、ユ－ホール等予定。
- ・昨年度は鳥の観察で終わっていたが、環境や食物からくる個体数の変化にも目を向け、野鳥と河川の関わりがわかる活動にする。その為、モニタリングを実施し記録していく作業も実施する。

(11)活動を行ううえでの課題等

- ・河川レンジャー養成講座参加者へのボランティアの呼び掛け支援をお願いしたい。
- ・夏場の屋外活動のため、協力団体やボランティアに対し、水分補給の飲料水や簡単な弁当(おにぎり)等の支援をお願いしたい。

(12)その他

- ・他のエリアで活動されている河川レンジャーの方々の参加もお願いしたい。

3.4 木津川クリーンアップ(山村 R、福井 R と共同実施)

(1)活動目的

木津川右岸の北部地域は、農耕地が隣接すると同時に中流域では川が堤防まで迫り、主要国道が堤防上を通っている。左岸では、全域で一部人家の接近が見られるが比較的農耕地が広がり原風景も残され、散歩やサイクリングなど自転車道を利用する人が多い。

また、夏には川原や橋の下でバーベキューを行う人が増え、その周りに大量のゴミの放棄が見られる。そのゴミは、木津川に吹き込まれ、大雨とともに淀川へと流されていく。浮くものや沈澱するものなど様々なゴミが滞留したまま劣化する過程で、水質の悪化の原因とも成り得る。

今年で4回目になり、ポスターによる活動の認知が増加傾向にあるが、次世代へ木津川の環境保全を継承するためには、より多くの人達の清掃活動参加が必要である。

山村レンジャー、福井レンジャー、田中レンジャーの共同の取り組みとして実施する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		企画立案、広報手配、 参加呼びかけ作業、 チラシ作製 各団体への案内
	5 月	20 日(木) 呼びかけポスターの貼り出し	参加団体の打ち合わせ 参加名簿作、連絡受付、 呼びかけポスターの貼り出 し 50 本
	6 月	20 日(日) 木津川クリーンアップ	手袋、ゴミ袋配布 結果まとめ
	7 月		収集物の撤収確認
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

参加対象:運営会議対象区域内的の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 :特に制限なし

(3)実施内容

山村レンジャー・福井レンジャー・田中レンジャー共催で実施。

恭仁大橋から三川合流まで兩岸の土手の天端付近のゴミ拾いを行う。

クリーンアップへの参加呼びかけポスターの設置(50本)を4週間前に行う。

日程 午前中の行動とする。

午後からゴミの撤収を行う。

兩岸の適当な場所に清掃活動への参加呼びかけポスターを50本立てる。

- ・個人の参加の場合はゴミ持ち帰りをお願いする。
 - ・団体参加の場合は事前に参加予定人数と清掃範囲、責任者、ゴミ収集予定地の連絡をいただく。
 - ・ゴミ袋の提供を行う。事務所まで受取りに来ていただく。
 - ・終了時点で河川レンジャーに連絡いただく。
- 国土交通省に収集ゴミを速やかに収集していただく。

プログラム

9:00	割当エリア集合	開会挨拶	趣旨説明	自己紹介
9:30	現場説明	注意事項の徹底		
9:45	清掃開始			
12:00	昼食			
13:00	ゴミの撤収	ポスター撤去		
15:00	解散			

(4)実施日

平成22年 6月20日 (日)

(5)実施場所

呼びかけ範囲 恭仁大橋から三川合流付近までの範囲



(6)広報・募集方法

- ・ 淀川管内レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・ 運営会議対象区域内の自治体広報紙への募集案内の掲載
- ・ 京都、朝日、毎日、洛南タイムスなど新聞各社に募集案内記事掲載と当日取材依頼
- ・ やましろ里山の会ホームページへの募集案内の掲載
週刊ニュース掲載
- ・ 運営会議対象区域内の学校・教育機関・父母の会及び図書館等への募集案内の送付

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ:やましろ里山の会 5名(運営補助、安全管理)

(8)必要支援内容

- ・国土交通省： 募集案内の送付
資料印刷 アンケートの印刷
手袋の支給検討
ゴミ袋の支給検討
収集したゴミの運び出し
呼びかけチラシとポスター印刷
杭の提供 50 本 ポスターのラミネート 50 枚
ベニヤ板 50 枚
収集ゴミの撤収
- ・沿川自治体： 広報紙での参加呼びかけなど

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

- ・実施計画の立案
- ・協力スタッフ依頼と手配・打合せ
- ・清掃活動参加呼びかけポスターの掲示貼り出し
- ・広報活動
- ・参加者募集 参加申し出の受付
- ・ゴミ袋の支給手配
- ・当日の運営
- ・立看板の撤収
- ・活動報告のまとめ

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

- ・ポスター貼り出しを 4 週間前に行う。

(11)活動を行ううえでの課題等

- 収集したゴミの撤去を速く行う。

(12)その他

3.5 地域で考えよう 防災(山村 R、福井 R と共同実施)

(1)活動目的

昨年(2019年)の10月7日の台風8号時の増水は、八幡・久御山をつなぐ流れ橋(上津屋橋)の流出などを例に、昨年夏には左岸の流れが激減し渇水した状況がありながら、台風による大雨の影響により、水の恐ろしさをまざまざと見せつけ、ダムが存在と堤防・防災について改めて考えさせる契機となった。木津川地域では小規模な洪水も激減し、土のう作り等を体験していない世代が増えている。木津川堤防についても信頼度は高いが、右岸については一部堤防間際まで流れが迫っている場所もある。こうした時、水害への備えと体験と実習は重要である。

昨年は木津川流域センターでの洪水体験、土のう体験は多くの参加者があり好評であった。今年は、木津川下流地域の八幡市で取り組みたい。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成22年	4月		企画立案 チラシ作製 自治体後援申請依頼用紙作成 申請依頼
	5月		
	6月		チラシ配布(全学校) 実施計画図 プログラム、 準備物、スタッフ会議
	7月	24日(土)地域で考えよう防災 実施	資料作成 会場設営 結果まとめ
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
平成23年	1月		
	2月		
	3月		

(2)参加対象者・定員

参加対象:運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 :参加者の申し込みを受け付ける。最大 100 名まで(予定)

(3)実施内容

山村レンジャー・福井レンジャー・田中レンジャー共催で実施
プログラム

- 9:00 スタッフ集合 受け付け開始
- 9:30 開会挨拶 スタッフ紹介 諸注意
- 9:50 水害体験の話 (講師 未定)
- 10:20 A 洪水体験 B 土のう作り体験
- 11:20 A 土のう作り体験 B 洪水体験
- 12:10 閉会挨拶 アンケート記入
- 12:20 解散

(4)実施日

平成 22 年 7 月 24 日(土)、25 日(日) 2 日間

(5)実施場所

八幡市八幡小学校運動場



(6) 広報・募集方法

- ・ 淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・ 運営会議対象区域内の自治体広報への募集案内掲載
- ・ やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
- ・ 運営会議対象区域内の小中学校への募集案内

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ: やましる里山の会 20名(運営補助、安全管理)
国土交通省: 10名(機械運転、安全管理)
講師 (予定)

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内印刷 資料・アンケートの印刷

募集案内の送付協力

- ・ 運営会議対象区域内の自治体及び公的施設への参加案内送付と
広報紙への記事掲載依頼協力

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・ 実施計画の立案 ・ 募集案内チラシの作成とポスターの作成
- ・ 広報活動 参加募集 ・ 借用物の手配と点検
- ・ 参加申し込みの受け付け 参加者名簿の作成 ・ スタッフ会議招集
- ・ 当日の運営 ・ アンケートの作成とまとめ ・ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

洪水体験は、水に接する機会の少ない人たちにとって貴重な体験であり、好評であった。木津川下流域の人たちにも是非体験してほしいので装置の借用をお願いしたい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

運営上多くのスタッフが必要である。

他地域の河川レンジャー達の協力をお願いしたい。

(12) その他

3.6 流れ橋はどんな橋

(1)活動目的

八幡市と久御山市をつなぐこの橋は全長約 356m の木造の流れ橋で 1951 年に造られた国内で最も長いものである。地域の人々の交通の重要な橋であり、訪れる人も多く観光としても重用な橋である。昨年(2021)の 10 月 7 日の台風 8 号時の増水はこの流れ橋(上津屋橋)を流出し現在修復作業がすすめられている。修復には国費は使われず、京都府の負担で工事が進められている。5 月 30 日に修復完了予定であるが、この流れ橋の歴史と構造について学ぶには大変良い機会であり、是非、水害から学んで工夫されてきたこの橋について学んでみよう。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		企画立案 チラシ作製 自治体後援申請依頼用紙作成 申請依頼 チラシ配布(学校その他) 実施計画図 プログラム、 準備物
	5 月	9 日(日)流れ橋はどんな橋	資料作成 会場設営 結果まとめ
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月	下旬 開催予備日	復旧工事の状況によって 5 月 の開催が難しい場合は 10 月下 旬の開催を考える。
	11 月		
平成 23 年	12 月		
	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

参加対象:運営会議対象区域内の流域住民(小学生以下は保護者同伴)

定員 :参加者の申し込みを受け付ける。最大 40 名まで(予定)

(3)実施内容

プログラム

9:00 スタッフ集合 受け付け開始

9:30 開会挨拶 スタッフ紹介 諸注意

9:40 流れ橋の歴史の話 (講師 未定)

10:10 現地移動

10:30 現地見学

12:00 四季彩館へ移動・閉会挨拶 アンケート記入

12:20 解散

(4)実施日

平成 22 年 5 月 9 日(日)

(5)実施場所

八幡市流れ橋、説明(四季彩館・現地(左岸))



(6) 広報・募集方法

- ・ 淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・ 運営会議対象区域内の自治体広報への募集案内掲載
- ・ やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
- ・ 運営会議対象区域内の小中学校への募集案内

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ： やましる里山の会 2名(運営補助、安全管理)

四季彩館スタッフ： 若干名 設営等

国土交通省： 1名

講師： (未定)

(8) 必要支援内容

国土交通省 募集案内印刷

募集案内の送付協力

- ・ 運営会議対象区域内の自治体及び公的施設への参加案内送付と広報紙への記事掲載依頼協力

資料・アンケートの印刷

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・ 実施計画の立案
- ・ 募集案内チラシの作成とポスターの作成
- ・ 広報活動 参加募集
- ・ 借用物の手配と点検
- ・ 参加申し込みの受け付け 参加者名簿の作成
- ・ スタッフ会議招集・当日の運営
- ・ アンケートの作成とまとめ・活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

新企画のため特に無し

(11) 活動を行ううえでの課題等

運営上修復工事の進捗確認と当日の安全確認が必要となり、若干名スタッフが必要である。

(12) その他

3.7 木津川展（山村 R、福井 R と共同実施）

(1)活動目的

木津川の堤防には、917種の植物が生育し、レンリソウを代表とする27種の希少植物が生育している。また、約30種類の魚類を確認し、さまざまな鳥が河原や河川敷の草林に生息している。この3年間の活動で明らかになってきた豊かな木津川の自然を、多くの流域住民に知らせることで木津川への理解を深め、活動への共感と支援を広げること、木津川にかかわる活動の拠点としての流域センターを知らせていくことを目的として、流域センターでの展示を行いたい。13日(日)流域センター付近での野鳥観察会を展示オープンの日として、一週間、展示を行い最終日にはワークショップをすることで子供たちへの関心を深める。

山村レンジャー、福井レンジャー、田中レンジャーの共催とする。

平成22年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		実施計画の立案 広報手配 講師とスタッフ依頼 チラシ作製
平成 23 年	1月		チラシ配布 展示物、 資料作成 アンケート作り
	2月	2日 13(日)～19日(土) 木津川の植物、魚、鳥の展示 木津川流域センターワークシ ョップ	展示 アンケートまとめ 結果まとめ
	3月		

(2)参加対象者・定員

参加対象： 運営会議対象区域内の流域住民

定員 : ワークショップ 50 人

(3)実施内容

山村レンジャー、福井レンジャー、田中レンジャーの共催で実施
流域センターで展示する。

木津川の魚たち水槽展示

木津川の鳥の紹介

木津川の植物の紹介

(4)実施日

2月13日(日)～19日(土) 午前12時～午後15時

(5)実施場所

木津川出張所管内流域センター



(6) 広報・募集方法

- ・淀川管内河川レンジャー ホームページの募集案内の掲載
- ・運営会議対象区域内の自治体広報紙への募集案内の掲載
- ・京都、朝日、毎日、洛南タイムスなど新聞社に募集案内記事掲載と当日取材依頼
- ・やましろ里山の会のホームページの募集案内掲載 週刊ニュース掲載
- ・運営会議対象区域内の学校、教育機関、父母の会及び図書館などへの募集案内の送付

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

やましろ里山の会：5名(運営補助、安全管理)

講師：植田 光弘 (鳥の説明 野鳥の会)

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内の送付 資料印刷 アンケートの印刷 展示用ボード
大型水槽 1個 小型水槽 2個 コアポンプ 7個 教材費用
呼びかけチラシとポスターの印刷 講師謝礼金の支払い

沿川自治体

広報紙での参加呼びかけ

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案 講師依頼 協力スタッフ依頼と手配 打ち合わせ
広報活動 参加者募集 借用物の手配と点検 教材購入 チラシ、
募集案内作成 参加申し込み受け付け 参加者名簿 当日の運営
アンケートまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

(11) 活動を行ううえでの課題等

- ・魚展示のための水槽、エアーポンプ、延長コードなどの準備、展示用ボードなどの設備を整えていただきたい。
- ・展示用の机が2台追加されると展示・活動に広がりができる。

(12) その他

3.8 木津川沿川活動団体活動交流会(山村 R、福井 R と共同実施)

(1)活動目的

木津川沿川には木津川にかかわる活動をしている団体の交流に取り組んで今回が3回目になり、参加団体、参加人数も増えてきているが、いよいよこれからである。

城陽生き物調査隊、環境生物研究会、野鳥の会、木津川植物同好会、木津川を美しくする会、木津川魚業協同組合、藤田カヌー、加茂の水と緑を守る会、青谷川を美しくする会、木津高校化学クラブ、上粕川を美しくする会・・・そして河川敷を利用するスポーツ諸団体等。

昨年は、講演「木津川にイタセンパラは復活可能か」の講演を聞き、城陽生き物調査隊から「青谷川の再生の取り組み」木津高校化学クラブから「木津川の水質調査」、木津川漁協から「漁協から見た木津川」を発表していただき、木津川の抱えている課題がはっきりとしてきた。

日常的に繋がりを持つようにしていきながら、山村レンジャー、福井レンジャー、田中レンジャーの共催として交流会成功に向けて取り組んでいきたい。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		実施計画の立案 広報手配 チラシ作製 後援依頼申請依頼
12 月		チラシ配布 資料作成 参加者名簿作成 アンケート作成	
平成 23 年	1 月	22 日(土) 木津川沿川活動団体活動交流会	当日の運営 アンケートまとめ 活動のまとめ
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者

運営会議対象区域内的の流域住民
定員 150 人

(3)実施内容

活動内容のポスター展示発表
活動内容のプレゼンテーション
基調講演
分散会交流会
講師 指導者 スタッフ

(4)実施日

平成 23 年 1 月 22 日(土) 午前 9 時 30 分～14 時まで

(5)実施場所

京田辺市社会福祉センター(京田辺市犬伏 5-8)



(6)広報・募集方法

- ・淀川管内河川レンジャー ホームページへの募集案内の掲載
- ・運営会議対象区域内の自治体広報への募集案内掲載
- ・やましる里山の会ホームページへの募集案内の掲載
(3月1日～4月17日)
- ・京都、朝日・毎日等新聞各社への募集案内記事提供と掲載依頼

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ： やましる里山の会 木津川部会 5名

(8) 必要支援内容

国土交通省

募集案内の送付協力

運営会議対象区域内の実態及び公的施設、活動団体への参加案内送付と広報紙への記事掲載依頼協力

資料・アンケートの印刷

淀川管内河川レンジャーの展示物 配布物準備

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案

参加者募集チラシ 募集案内作成 参加申し込み受け付け

協力スタッフ依頼と手配 打ち合わせ

展示物準備 プログラム、参加者名簿作成

当日の運営 アンケートまとめ 活動報告のまとめ

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

計画立案、案内状の発送は 12 月中に行ったが、自治体からの参加者が一つもなかったことが残念である。

運営会議参加団体や自治体関係者の方々の協力を仰ぎたい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

昨年のお阪工業大学教授 綾史郎氏の「木津川にイタセンパラの回復は可能か」の講演は多くの参加者の関心を引いたように、木津川の現状を明らかにする魅力的な講演を計画していくことが大切である。

(12) その他

・木津川沿川の自治体行政の方々の参加もお願いしたい。